

## 疑問・ご意見

- 1) 現在使用している塩基性フクシンは残り少なくなり、新しい（同じC Iの）塩基性フクシンで試薬調整しても良い染色性を示さない。メーカーは品物が変わってからしか連絡が無く、切り替わる前にも情報を知らせて欲しい。
- 2) レゾルシン・フクシンはフクシン、レゾルシン（レゾルシノール）、ヒドロキノンの組み合わせ（メーカー、ロット）で染色性が著しく異なる。また、気温やつくり手によっても多少染色に差が有るようである。
- 3) 当施設では4  $\mu$  くらいで染色しています。今回のコンペの標本は薄く、染まりも弱いような気がします。
- 4) 核染色を行っても、VanGieson液をかけるとどうしても核の色が残らない。（時間をながくしても、分別を軽くしてもダメ）
- 5) 固定条件によってだと思いが、色ののりの悪い、さえない色調に染まることもある。このような場合の改善方法をお教えいただきたい。
- 6) 染色する機会が少なく、手技に習熟していないためでしょうか、今回の標本ではピクリン酸が染まりませんでした。
- 7) 今回は切片が薄かったのか、シリウス赤による膠原繊維の染色性が弱かった。
- 8) ワンギーソン液の表面にピクリン酸の結晶と思われるものが浮遊していることを、しばしば経験するのですが、染色性に何か問題は有るのでしょうか。また、なぜこのようなことが生じるのでしょうか
- 9) 当初、ピクリン酸100mlに対し、酸フクシン15mlの処方で行ったが、赤がかぶり過ぎて判別難しいと言われ、今は10mlにしている。入れて30秒程で染まるものとされているので、弾性繊維の黒が強調される処方をご教示下さい。また、ピクロシリウス赤が我々の所では一般化していません（酸性フクシンの方が良いという評価です）。長、短所分かればこれもご教示下さい。
- 10) ピクリン酸の色素が思うように染まりません。切片の厚さ、固定時間等が関与するのでしょうか？